

平成 23 年 5 月 25 日

各学校柔道部 顧問 各位

国際柔道連盟試合審判規定の解釈について（連絡）

長野県高体連柔道専門部

北信越高体連常任委員より、「国際柔道連盟試合審判規定の解釈」について以下の通り連絡がありました。

6 月の県大会、北信越大会からこの解釈で試合を行うこととしますのでご確認をお願いします。

平成 23 年 4 月 25 日

国際柔道連盟試合審判規定の解釈について

全柔連審判委員会

昨年から I J F 主催の大会にて、帯から下部を攻撃・防御した場合「反則負け」になり、一部（モンゴル等）の国では帯びより上部であれば良いと判断して「ベアーバグ」（熊が人を襲うときのように両手で抱え込む方法）」のような攻撃をするようになったが、これは柔道の技ではないとする。

したがって、一回目は「待て」二回目は「指導」三回目は「指導」というふうに反則を与える。しかし、片手が組み合っている状態から奇襲的に覆いかぶさる等の方法は反則ではない。

この反則と似ているものは、「相手の組み手を嫌がって首抜きをする選手には一回目は反則としないが、二回目は「指導を与える」がある。

※この取り組みについては規定の改正ではない。